



一千八百六十六年間
函館港貿易景況
二就
美國領事報告書



3421



414
A 3142
1716

千八百七十六年

在函館英國領事館
就キ英國領事報告書



千八百七十七年四月二十日

客歲ノ函館港貿易表ヲ送進スルニ於テ大ニ遲延セシテ予カ切
ニ歎息スル所ナリ蓋シ其所以タルヤ税関ニ於テ大藏省ノ認可
ヲ得サル間ハ昨半年間ノ貿易表ヲ予ニ与フルヲ許サ、リシカ
為メニシテ談表ノ予カ手ニ達シタルハ漸ク今月ノ初旬ニアリ
シカ故ナリ

船舶出入及ヒ貿易表ハ各二通ニシテ前年ト同様ナリ即チ

第一 英國及ヒ他國ヨリ輸入ノ物品表

日本ノ開港場ヨリ輸入ノ物品表

第二 英國及ヒ他國ニ輸出ノ物品表

日本ノ開港場ニ輸出ノ物品表

大正
張五
候
四月
贈月

第三 輸出入ノ貨幣表

第四 外國船出入表

第五 輸出入集稅表

但入出港ノ手數料ニ此表中ニアリ

第六 英國人其他外國在苗人及ヒ商會表

船舶出入

入港

出港

	船數	噸數	船數	噸數
千八百七十五年	三六	一、七八五	三九	一、三九四
千八百七十六年	三二	一、〇五三	三二	一、〇五三
減少	四	一、七三二	七	一、八八一

日本蒸氣商船ノ横濱ト函館港トノ間ニ數艘往返スルモノアル
 外 國 船 船 出 入 八 年 々 減 少 セ リ 已 ニ 昨 年 中 日 本 ノ 國

旗ヲ上ケタル蒸氣船百。四艘余(噸數九万二千五百十三噸)當
 港ニ來着セリ從來ハ支那ニ輸出ノ諸物品ハ直チニ帆前船ニテ
 積出シタレ凡當今ハ過半リ本ノ蒸氣船ヲ以テ横濱ニ送リ全所
 ヲ上海ニ向ケ積移セリ

輸入品

外國ヨリ

開港場ヨリ

千八百七十五年	二七、六四一弗	三九、四八四弗
千八百七十六年	二七、三八〇弗	一六、五四〇弗
減少	二六一弗	二二、九四四弗

開港場ヨリ輸入品ノ大ニ減少シタルハ既ニ前田ノ報告ニモ陳
 述セシカ如ク日本商人及ヒ店賣商人ノ要需スル外國物品ハ歐
 羅巴ヨリ直チニ取寄セタルモノ、代價ヨリモ横濱及ヒ東京ノ
 羅市ニ於テ過半ハ極メテ廉價ニ買入ルヲ得ルニ由ルナリ

衣類諸種ノ食料品鉄物陶器及ヒ諸子器驕奢物ノ如キ外國製物
 品巨多ヲ一ノ蒸気船トシテ積未テサルハ無シ實ニ何品ヲ論セ
 ス日本ノ店ニ於テ買入ル、ヲ以テ最モ良シトス然レモ葡萄酒
 類焼酒類其他炭酒ノ如キハ用心セサルハカラス
 又輸入品ノ内数多日本中國ノ北部ヨリ来ル高人之レヲ買入レ
 リ即チ青森ノ蒸気船続々之レヲ輸出セリ

輸出

外國ヨリ

開港場ヨリ

千八百七十六年	七七六、九六二弗	六、五四四弗
千八百七十五年	三五〇、七三四弗	四五一、一六八弗
増	四二六、二二八弗	減三八、六二四弗

此報告中ニ見ルカ如ク外國即チ支那ニ輸出ノ物品ハ千八百七
 十五年ノ輸出高ト比較スレハ二倍余ナリ然ルニ日本國內開港

場ニ輸出ノ分ハ大ニ減少セリ蓋シ外國人ノ競争ヨリ方今ハ日
 本人ノ手ニテ干魚数多ヲ南部ノ諸港ニ輸出スルカ故ナリ然レ
 モ輸出品ノ代價總計ハ前年ニ比シテ超過スル一三十八万七千
 六百四弗ナリ

一般ノ景況

千八百七十六年ノ一大記事ト称スルハ當嶋ニ天皇ノ巡視ア
 リシ一ニシテ曾テ日本ノ國君カ斯克ノ如キ遠隔ナル^北地方ノ國
 ニ来リシハ實ニ初メテナリ
 陛下ハ政府ノ諸局ヲ巡覽アリシ後官立学校ニ立寄ラセラレ生
 徒ニ種々ノ御尋問等アリテ数時間全所ニ足ヲ留メラレタリ蓋
 シ大ニ御感アリシト見ヘタリ其故ハ其後ニ至リ全所御巡視ト
 御尋問ノ事件ニ生徒カ速ニ奉答セシ事トニ就テ大ニ満足セラ
 レシ旨ノ勅アリタレハナリ

八十人ヨリ百人ノ蝦夷人妻ト共ニ其君主ニ敬禮ヲ表センカ為
メニ来リ彼等ハ上等種族ニシテ諸種族ノ酋長ト見ヘタリ何
ントナレハ毎春季ニ市街ニ集會スル一般ノ人種ヨリモ其外貌
貴重ニシテ其衣服ニ至テモ亦美ナリ

余カ聞ク所ニ依レハ天皇ノ鳳輦彼等ヲ通過スレハ近道ヲ廻リ
常ニ明カナル場所ニアリテ拜見セリト蓋シ彼等ニ於テハ行列
ノ通過スル道路ヲ知り能ハサレハ官吏ニ於テ彼等ノ為メ斯ク
取計ヒタルナリ

蝦夷人ハ其土俗ノ舞踊ヲ兩度天覽ニ備フルノ榮ヲ有セリ其舞
踊ルヤ車踊ト稱スヘキモノニシテ歌ハ若シ之レニ見解ヲ下
スヘキナレハ滑車ニ懸ケル鏈ヲ上下スル片ニ發スル聲音ニ
類似スルモノナリ而シテ其足ノ運動ハ車輪ヲ運轉スル所ノ人
ノ足ノ如シ其運轉ハ能ク規則ニ叶ヒ而シテ其手ヲ打ツニ調子

ヨク揃ヘリ彼等ハ陛下ノ其舞踊ヲ嘉尚セラレタル恩過ノ厚キ
ニ依リ大ニ喜悅ノ色ヲ顯シ殊ニ余カ推考スル所ニ依レハ陛下
ノ彼等一同ニ分配ノ為メ惠賜セラレタル千圓ノ金ニ於テ一層
ノ感謝ヲ覺ヘシナルハシ

談地ニ陛下ノ御駐輦ハ僅カニ二日ヲ越ヘサリシ此時間中陛下
ハ七重ニアル農業試驗場ヲ巡覽セラレタリ

其後二三週間アリテ天皇陛下ノ内閣大臣又函館ニ來談貴官等
ハ學校巡見オニテ同所ニ數日間滞在アリテ後チ汽船ニ乗シオ
タルナリニ赴カレ夫レヨリ札幌ヲ巡廻レ而レテ本道ヲ經テ函
館ニ歸着セリ

電信

千八百七十五年間ノ余カ報告ニ陳述セシカ如ク青森ト當嶋之
間ニアル二重ノ海底電信線ハ千八百七十六年ノ初メニ切斷セ

リ因テ昨夏其海底線ハ引揚ケ之ヲ結合セント試ミタレトモ其
功ヲ果サス止ムヲ得ス新ニ海底線ヲ歐羅巴ヨリ取寄セサルヲ
得サルニ至レリ之カ為メニ今日猶電信便ハ青森ノ郵便船ヲ仰
クナリ

郵便

日本ノ郵便局ハ千八百七十四年ニ於テ外國ノ方法ニ倣ヒ修整
シ而シテ其翌年太平洋海郵便船ノ當港往復ヲ中絶セシ時ヨリ外
國郵便ノ取扱ニ着手セリ
該郵便局ニハ外國人無ク而シテ日本郵便ト外國郵便トヲ特ニ
區別スル事ナク而シテ郵便トモ同局ニ於テ取纏メ之レテ同局ヨリ
配達セリ
郵便船ノ着港スルヤ其後僅カニ一時間ニシテ然テ郵便物ハ配
達ノ順序整ヒ若シ之レヲ受取りニ行クモノアラサレハ其次ノ

一時間ニハ每家ニ配達セリ

郵便船ノ出帆前八時或ハ十時前ニ必ス報告ヲ出シ且ツ時トシ
テ郵便船出帆ノ時日前知シタル時ハ前書ノ時刻前ト雖モ報告
ヲ出セリ

横濱ヨリノ郵便ハ此十二ヶ月間定式ハ日ニ於テ函館ニ着シ青
森ヨリ郵便ヲ載帶シ来ル蒸気船ハ隔日ニ来着セリ

税関

税関ハ昨年中悉皆改正アリテ方今ハ他ノ開港場ノ如ク同様ノ
方法即チ大畧外國ノ方法ニ隨ヒ事務取扱ヒテ為セリ税関官吏
ハ甚タ嚴シシテ時トシテハ鄭重ニ過キ之レカ為メ時間ヲ費セ
リ然レ氏漸々ニハ今少シク速カニ事務ヲ運フヲ知得スニシト
予ハ信シテ疑ハサルナリ

裁判所

裁判所ハ満足スル処甚ク少シ訴訟ハ無期限ニ遅延スルヲ許シ
之レカ為メ日本人ニ對シ請求ノ事件ニ於テ日本人ハ何品ヲ論
セス其所有ノ物品ヲ隠賣スルノ好機會ヲ得而シテ其破産ヲ公
告スルノ日ニ當ツテ極メテ每請求ノ既ニ終尾ニシテ價アルモ
リハ一物モ所有セサルナリ

然レハ警察ノ事ニ至リテハ我輩毫モ訴フル処無ク其盜賊或ハ
犯罪人ノ如キハ官吏ノ警察ヲ遁レ能フモノナシ實ニ其官吏
等ノ警察ニ意ヲ注クヤ如何ナル方法ヲ以テ之レヲ探索察見ス
ルカ實ニ驚愕ニ至リナリ

教育

札幌余カ前四ノ報告ニ記載セシ所ノ札幌ニ在ル男女生徒学校
ハ日本校長ノ不行跡ヨリ之ヲ閉校ス其生徒ハ各其父母ノ許ニ
送り出セリ

同所ニ於テ農学校ヲ建設セラレ四名ノ外國人之レヲ監督セリ
方今ハ生徒僅カニ十五人ノ餘ニ過ラス

函館ニ於テ開拓使ノ公立学校五校アリテ其生徒五百二十五人
ナリ内四百四十六人ハ男生徒ニシテ残余ハ女生徒ナリ

二十人ノ日本教師学校ノ事務ヲ擔任セリ兒童ハ讀書習字萬國
地理萬國歴史及ヒ分教迄ノ美術ヲ教授セリ其学校時間ハ夏気
ニ於テ七時ヨリ一時冬季ハ九時ヨリ三時ヲ限トス内一時間ハ
昼飯ノ為メ之レヲ許セリ其他每一時ニ十分間兒童ノ自由ニ奔
走樂ミヲ為スタメニ解放セリ蓋シ此学校ニ入学ノ許可ヲ得ル
ノ手續キハ町會所ノ役員ニ書面ヲ以テ出願スルナリ但シ下級
ノ生徒ノミ入校ヲ許スナリ而シテ月謝ハ各生徒ニ就テ一ヶ月
十二錢五厘ヲ拂フヘク一家族中ヨリ三人以上入学スルモノア
ル時ハ第三ノ兒童ヨリ八月謝ヲ差出スニ及ハサルナリ

總テ有名ナル市街ニハ前書同様ノ学校建築アリ然レハ人員表ノ如キハ手ニ入ラサルナリ

前文ニ掲クルノ外私立学校数多アリ此学校ニ於テハ唯読書及ヒ習字ヲ教ユルノニ此種ノ学校ニ入学スル生徒ノ数ハ予カ確知シ能フ所ニシテハ平均大約日々千五百人ニシテ其月謝ノ如キハ五匁ヨリ十匁ナリ

商人三人合後シ日中營業ニ従事スル職工及ヒ其他ノ者ノ多ク夜学校ヲ建設セリ其時間ハ夕六時ヨリ十時迄ニシテ善行ノ證跡ヲ差出スニ於テハ入学スルヲ得ルナリ

年江ハ十二歳ヨリ十八歳迄月謝ハ十匁ニシテ唇籍ハ貸与セリ而シテ其教授ノ順序ハ前ニ云フ官立学校ト同一ナリ

シリヤ岬燈明臺

燈臺ハ昨秋ノ頃功成リ十月ニ於テ点火セリシリヤ岬津輕瀬

戸ニ於テ日本中國ノ北東ニアリ燈明ハ海面ヨリ高キ一百五十尺ニシテ晴天ハ七十八マイルノ距離ニ於テ之ヲ見ルヲ得ルナリ

燈臺ハ九十四尺ノ高サニシテ四形ヲ為シ煉化石ヲ以テ建築シ白色ヲ以テ之レヲ塗レリ

位地

北緯四十一度二十六分十秒

東經百十四度二十九分二十五秒

談燈明ハ航海ノ為メ大ニ便益トナルヘシ猶ホ今日函館ノ岬ニ燈臺建設ノ説アリ

造船

此兩年前英國ノ造船人ニ於テ外國ノ船形ニ倣ヒ百噸ノ船ヲ以内ノスクー子ル形ニ艘ヲ造船セリ其造船人ノ雇ヒタル日本ノ大工ハ外國形造船ノ事ヲ總テ習得スルノ速カニシテ己ニ昨

年ハ其大工中ニテ曾テ習得シタル雛形ヨリモ遙カニ下リシト
ハ雖モ平均二十噸ヨリ八十噸百噸マテノスクーヰルハ艘餘ヲ
船卸シセリ今日猶前昏ノ如クスクーヰル數艘造船中ナリ而シ
テ英國造船師「トムソン」氏ハ日本人ノ為メスクーヰル造船ヲ引
受テント再三試ミタレモ多クハ金ニ乏シキモ人數多ナリ
一時同拓使ニ於テ當港ニ造船所ヲ建築セントノ見込ナリシカ
其意ヲ変シ「ウヰルカ」ノヘ「エサン」ニ於テ「モロラ」ニ造船所建築
ヲ初メタリ然レモ今所ニ於テ此類ノ造営ヲ監督スルニ適當ナ
ル職工或ハ適任ノ者ヨリモ官吏ノ方數多ニシテ恐ラクハ此新
造営ノ為メ巨万ノ金ヲ費消セシ后ヲ終ニ其目途ヲ達スル能ハ
サラン事ヲ予ハ痛歎スルナリ若シ諫業ヲ熟知スル實際經驗ノ
モノ一人アレハ徒然ニ筆紙墨ヲ以テ日ヲ費ス數多ノ人員ヨリ
モ猶一層ノ功ヲ奏スヘキナリ

七重試驗場

七重ニアル試驗場ハ其初當島ノ為メ大ニ利益ヲ為スヘキモノ
ト預算セシニ今猶莫大ノ入費ヲ以テ之レヲ保存シ農業試驗場
ニシテ其巨額ノ出費ヲ補ハシムルノ策ヲ為サハルナリ蓋シ當
島ニ於テ農業ヲ盛大ニスル時ハ巨多ノ利益ノ増進ヲ導クヘキ
ハ疑ヲ容レサル処ナレハ實ニ歎息ノ至リナリ何トナレハ日本
ノ内此島内ヲ旅行スル人毎ニ斯クノ如ク豊饒ノ地ニシテ其指
置宜シキヲ得ハ利益ヲ生スヘキヲ空シク之レヲ荒廢ニ置キ敢テ
手ヲ下サハルヲ歎カサルモノナケレハナリ素ヨリ季候ニ於テ
ハ最極北ナレハ人民ノ常食トスル米ノ培養ニハ適當セスト虽
モ其人民生活ノ道ニ漸々外國ノ風ニ推移スルカ故ニ當島中ニ
家畜、麦類、野菜及ヒ菓物ヲ培養スルニ於テハ大ニ功ヲ見ルヘキ
モノアルヘシト予ハ信スルナリ何トナレハ季候ハ大畧英國ト

相等レク而シテ其地味タルヤ僅カ勞力ヲ費セハ何品ヲ論セス
生長スヘキ豊饒且ツ肥地ト云フヘキナレハナリ
当今内外國人及ヒ船中乗組人ノモノ費消ノ為メ需要スル此ニサ
ノ牛ハ南部地ヨリ輸入スルト雖極最上ノモノト雖凡實ニ貧
キナリ

若シ日本人ニ於テ該事ニ着手シ此豊饒ナル牧場地ノ一少部分
ヲ家畜一牧畜ノ為ニ用エル時ハ之レカ為メ廣大ナル利益ヲ起
スノミナラス我輩カ今買入ル、不味ナルモノニ引換ヘ神戸
牛ニ劣ラサル牛肉ヲ同價ニテ賣捌クヲ得ヘシ而シテ近來日本
人ハ日々ノ食ニ牛肉ヲ用エルナレハ又日本人ノ為メ無量ノ益
タルヘシト予ハ信スルナリ
蝦夷島ノ漁獲ヨリ生ヘキ無量ノ富財モ予茲ニ再三説明スル
ヲ要セサレモ若シ官吏ニテ種々ノ妨碍ヲ為サ、レハ先年未克

分ノ盛大ヲ極メタルナレヘシ塩魚及ヒ干魚ハ己ニ質劣ノ年報
書ヲ差出セルカ、口ノ近年未支那及ヒ日本兩國ニ賣捌ケリ
昨年「アキ」近傍凡一土餘ニ蔓延スル蝦床ヲ以テ投機ノ利潤物
トシサント始計セリ則チ當島ノ一住人支那ノ市場ノ為メ支那
風ニ躡ラ干シ上ケンカ為メ支那人三名ヲ雇ヒ入タリ然ルニ談
事タル實ニ利益アル始計タルヘキヲ發見スルヤ否其受得タル
借地證文中ニ一ニノ欠條アリテ之レカ為メ恐ラクハ廣大ナル
利潤ヲ生スヘキ商業ヲ廢棄スルニ至レリ今日予カ聞ク處ニ依
レハ官吏ノ内其己ニ着手セシ事業ヲ起サン 企望アリト察
セラレタリ
昨秋輸出ノ為メ鮭ヲ保存スル特殊ノ法ヲ日本人ヨリ予ニ示サ
レタリ乃チ根室ニ在苗スル日本人ヨリ薰乾鮭一尾トブリッキ函
ノ中ニ保存セシ鮮鮭トヲ予ニ贈リ其品ノ善惡及ヒ市場ニ於テ

大歳

賣捌クヘキ品物ナルヤ否予カ意考テ附与セシテラ依頼シ未レ
リノ予之レヲ良ク試シニ其烟鮭ハ從來日本ニ於テ味ヲタル
鮭ヨリモ美味ナリ何トナレハ「根室」ノ鮭ハ同所ノ南方ニ於テ漁
リタルモノヨリモ香味トモ遠カニ善良ナレハナリ而シテ其錐
入鮮鮭ノ如キハ固ニ美味ニシテ若シ歐羅巴列ハ米利堅ヨリ
東洋ニ輸出スル品ト芳ラサレハ全ク同様ニシテテガシモ芳ラヤ
ルナリ其品ノ見本ハ東京ニ回送セリト聞ケリ若シ其品良ク保
存スル時ハ独リ其品ノミヲ以テ最モ利益ノ商業ニシテ加フ
ニ船舶ノ為メ無量ノ利益トナルヘシ且該業ニ従事スル時ハ其
鐘^保保^存ノ方法又^極極ニモ連及スヘシ茲ニ於テ投機者ヲシテ要
用ナル堪忍ヲ以テ充分ノ資本ヲ備用セシムル時ハ一大美業ヲ
起スヘキト予ハ推考スルナリ何トシレハ外国人カ資本ヲ出ス
ハ格別直接ニ外国人ノ該業ニ関係スレハ固ニ稀ニシテ且ツ外

國商人ノ從來此島中ニ在ル他ノ物産ノ為メ資本ヲ出シタル事
アリテ歎息スヘキ結果ヲ見タル經驗アレハ其資本金ヲ出スハ
良策ニアラサレハナリ謹言

アルエースデン

英國公使

シル、ハルリト、ハークス、ケーレトビー

第一

千八百七十六年十二月三十一日ニ終ル一周年間函館港
輸入貿易表

英國及他ノ外國ヨリ輸入

- 一石炭油 串一八四七三
- 一綿 同 八七八五

一雜貨

同 一二三

統計 二七、三八〇

日本ノ開港場ヨリ

一石炭

井五、二五〇

一滑皮及ヒ皮類

二、〇四三

一砂糖

一、四二四

一葡萄酒、麦酒及ヒ蒸溜物

二、四三六

一雜貨

五、三八七

統計 一六、五四〇

第二

千八百七十六年十二月三十一日ニ終ル一週年間函館港

輸出貿易表

英國及ヒ他ノ外國ニ輸出

一鮑

同 九三二

井四九、六四三

一鯧

一

一

一鹿角

同 四八四

同六、八七二

一千魚

同 一、三五〇

四、七六〇

一滑皮及ヒ皮類

一

一、一二七

一煎海鼠

二、〇一九

一二六、七一〇

一昆布

二四、五六三

五一、二、七九〇

一刺昆布

七、三〇六

二、四、一四七

一鮫鱈

四六

一、一〇七

一硫黄

一七、一八三

二五、三四四

統計

七七、六、九六二

日本ノ開港場ニ輸出

一 雜貨

六、五、四、四

第三

千八百七十六年十二月三十一日ニ終ル一週年間輸出入
ノ貨幣表

開港場ヨリ輸入

一 墨西哥弗

二、二、〇、〇、〇

輸出

一無シ

第四

千八百七十六年間函館港出入ノ外國船舶表

入港

出港

國名	船數	噸數	船數	噸數
英吉利	一三	五、三、八一	一六	五、四、八一
米利堅	七	一、六、二九	七	一、六、二九
日耳曼	五	一、二、六八	五	一、二、六八
魯西亞	四	一、二、二四	四	一、二、二四
瑞典	三	一、〇、一一	三	一、〇、一一
總計	三二	一〇、五、一三	三二	一〇、五、一三

第五

千八百七十六年十二月三十一日ニ終ル一週年間輸出入
稅及ヒ入出港手數料表

一輸出稅

一 弗二一〇、二七一四

一輸入稅

一 八九五、五一

一入出港手數料

一 七九四、七三

總計

二二、六二八、〇八

第六

外國在苗人及商會表

一英國在苗人

一六

商會

二

一米利堅

全 一二

一魯西亞

全 三

一丁抹

全 二

一佛蘭西

全 二

一日耳曼

全 二

總計

二七

商會總計

二

大歲首



